

「豊田市のまちづくりと市民活動に関する調査Ⅱ」集計結果の概要

名古屋大学社会学講座 丹辺宣彦・中根多恵

1. 調査の目的と集計の現状

本調査は文部科研費(基盤研究(B):26285110)によるものであり、2015年8月現在の豊田市住民のまちづくりについて、1)どのような関心・参加意向があり、2)どのようなプロフィールの人が実際に参加しているか、3)参加を促進する要因は何なのか、ということをも市の都市発展と関連づけて明らかにしようとするものである。2009年におこなった調査結果と比較しつつ、まちづくりの要因、実態、結果を明らかにするための調査であり、豊田市の今後のまちづくりを考えるための基礎資料と分析を提供することをねらいとしている。

現段階(2016年2月)で単純集計までの作業を終えているので、概要を研究室のホームページで公開することとした。2016年7月には、より詳細な調査報告書を刊行して公開する予定である。調査にご協力いただいた市民の皆さまには心よりお礼を申し上げたい。

2. 調査実施概要

本調査の実施概要は以下の通りである。

- (1) 調査対象地域 豊田市旧市内
- (2) 調査対象者 2015年6月1日現在で豊田市に居住し住民基本台帳に記載されている25歳～74歳の男女
- (3) サンプル数 3000人
- (4) 抽出方法 市内町別の人口統計資料と住民基本台帳を用い、確率比例2段抽出(抽出した60町から各50名ずつ抽出:女性に対し男性を2倍の比でオーバーサンプリング)
- (5) 調査方法 郵送による配票・回収
- (6) 2015年8月5日から9月8日まで
- (7) 有効標本回収数 1354票
有効回収率 45.1%

3. 集計結果の見方

- ・集計結果は有効回答をもとにパーセンテージを算出し、「○○% (N=○○)」(カッコ内「N=○○」は回答数)という形で記してあるが、設問によっては平均値を記載しているものもある。
- ・それぞれの設問に対して簡単な説明を加え、一部についてはグラフで男女別の集計結果を示している。
- ・無効回答および非該当の場合は省略しているため、実数を加算した際に1,354にならないものもある。

問1 あなたの性別はどちらですか。

1. 男性 53.0% (N=717) 2. 女性 47.0% (N=637)

本調査では、調査対象実人口の性比が1.126であることを考慮し、それに合わせて調整（ウェイト・バック）したサンプル数で集計をおこなっている。

問2 あなたの年齢はつぎのどれに当たりますか。

1. 25～29歳 2. 30～34歳 3. 35～39歳 4. 40～44歳 5. 45～49歳
5.0% (N=68) 8.1% (N=110) 8.2% (N=111) 9.7% (N=132) 9.4% (N=127)
6. 50～54歳 7. 55～59歳 8. 60～64歳 9. 65～69歳 10. 70～74歳
10.0% (N=135) 10.9% (N=147) 13.1% (N=177) 14.9% (N=202) 10.7% (N=145)

年代別の回答数は以上のようにになっている。60代の回答数が多く、20代後半で少ないのは、回答率のちがいによるものである。

問3 豊田市と現在のお住まいには何年ほどお住まいですか。

豊田市に約（平均 36.1）年 → うち現在の住まいに約（平均 23.5）年



現在のお住まいに引っ越されて来た方にうかがいます。

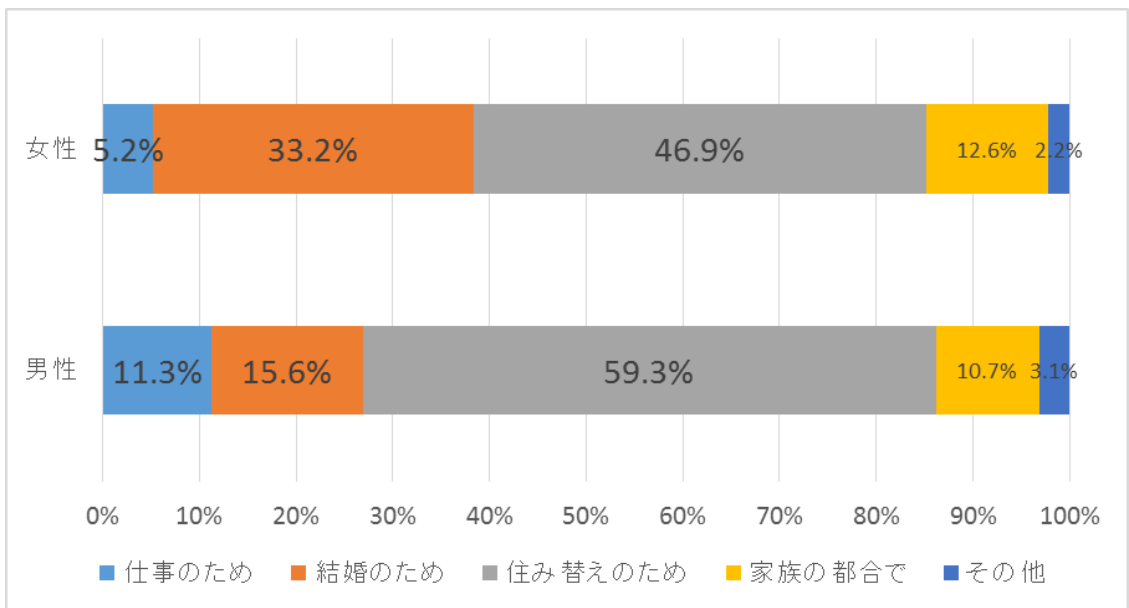
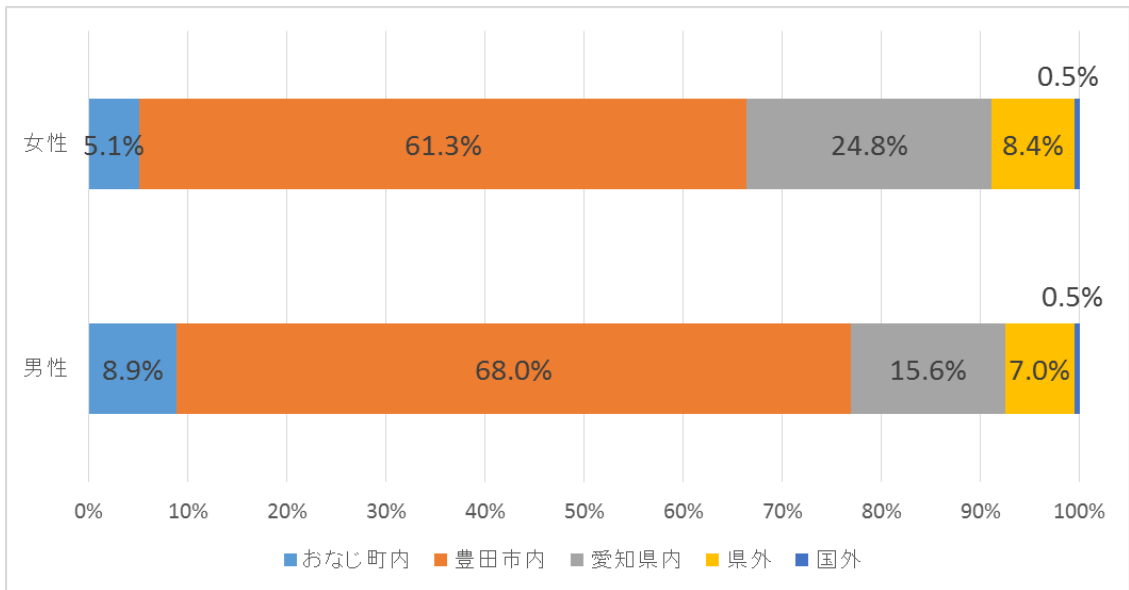
【付問】直前にお住まいの場所はどちらでしたか。また、その引越しのきっかけは何でしたか。

1. おなじ町内 2. 豊田市内 3. 愛知県内（市町村名：）
7.1% (N=83) 64.7% (N=762) 20.1% (N=237)

4. 県外 5. 国外
7.6% (N=90) 0.5% (N=6)

1. 仕事のため 2. 結婚のため 3. 住み替えのため
8.3% (N=94) 24.3% (N=275) 53.1% (N=603)

4. 家族の都合で 5. その他
11.6% (N=132) 2.7% (N=31)



市内居住平均年数は 36 年、現住所での居住年数も 23 年を越えており、それぞれ長くなっている。雇用が安定し、定住化が進んでいることを物語っていると言えよう。引越しをして来た人に前住地をたずねたところ、男女ともに市内が 7 割内外と多く、愛知県外から直接越してくるケースは 1 割に満たなかった。引越すきっかけについては、「住み替え」のためが多いが、女性では「結婚のため」が多く、男性では「仕事のため」がやや多かった。

問4 あなたは現在お住まいの地域に愛着がありますか。

1. 強い愛着がある 14.3% (N=194)	2. ある程度愛着がある 60.7% (N=822)	3. どちらとも言えない 15.3% (N=207)
4. あまり愛着はない 7.2% (N=97)	5. まったく愛着はない 2.5% (N=34)	

地域への愛着については、全体として愛着があると肯定的に答えた人が3/4に上り、多くなっている。

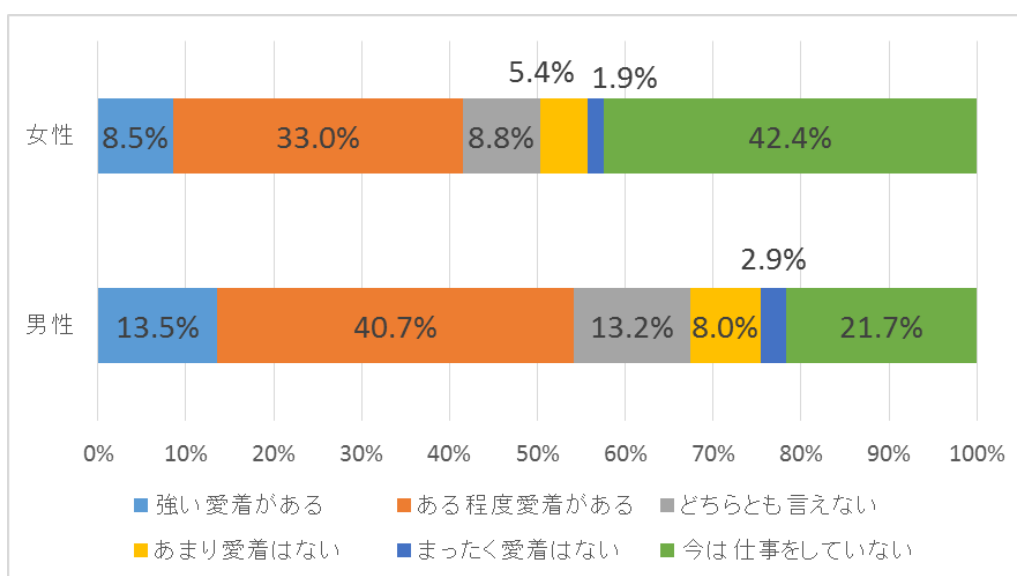
問5 日ごろはどれくらいお忙しいですか。

1. 非常に忙しい 16.2% (N=219)	2. どちらかといえば忙しい 45.3% (N=613)	3. どちらとも言えない 18.6% (N=252)
4. あまり忙しくない 13.4% (N=182)	5. 忙しくない 6.5% (N=88)	

多忙感については、全体として忙しいと答えた人が6割に上っている。

問6 現在のお仕事にどれだけ愛着がありますか。

1. 強い愛着がある 11.1% (N=150)	2. ある程度愛着がある 37.0% (N=499)	3. どちらとも言えない 11.1% (N=150)
4. あまり愛着はない 6.8% (N=91)	5. まったく愛着はない 2.4% (N=33)	6. 今は仕事をしていない 31.5% (N=423)



仕事への愛着についても肯定的に回答している人が多い。女性では「今は仕事をしていない」人も多いが、それを考慮すれば、男女の比率に大きな違いはみられない。

問7 自由に使える時間が今より増えたら、あなたは何をしたいと思いますか。次の a)～f) についてお答えください。

	とてもしたいと思う	ある程度したいと思う	あまりしたいと思わない	したいとは思わない
a) 趣味や娯楽	47.0% (N=629)	48.0% (N=642)	3.8% (N=51)	1.2% (N=16)
b) 仕事や能力開発	7.8% (N=103)	46.5% (N=614)	31.9% (N=421)	13.9% (N=183)
c) 家族・友人と過ごす	36.0% (N=476)	57.3% (N=758)	5.0% (N=67)	1.6% (N=21)
d) ボランティア活動やNPO活動	4.2% (N=55)	31.9% (N=420)	43.7% (N=577)	20.2% (N=267)
e) 地域交流や自治活動	2.3% (N=31)	36.6% (N=485)	41.3% (N=547)	19.8% (N=262)
f) 休息をとる	28.2% (N=373)	56.4% (N=745)	11.8% (N=156)	3.6% (N=48)

自由な時間が増えた場合にしたいこととしては、「趣味や娯楽」「家族や友人と過ごす」がもっとも多い。ついで「休息をとる」が多く、社会貢献関連の活動は比較的少ない。

問8 職場で仕事に取り組む際に心がけていること(いたこと)は何ですか。

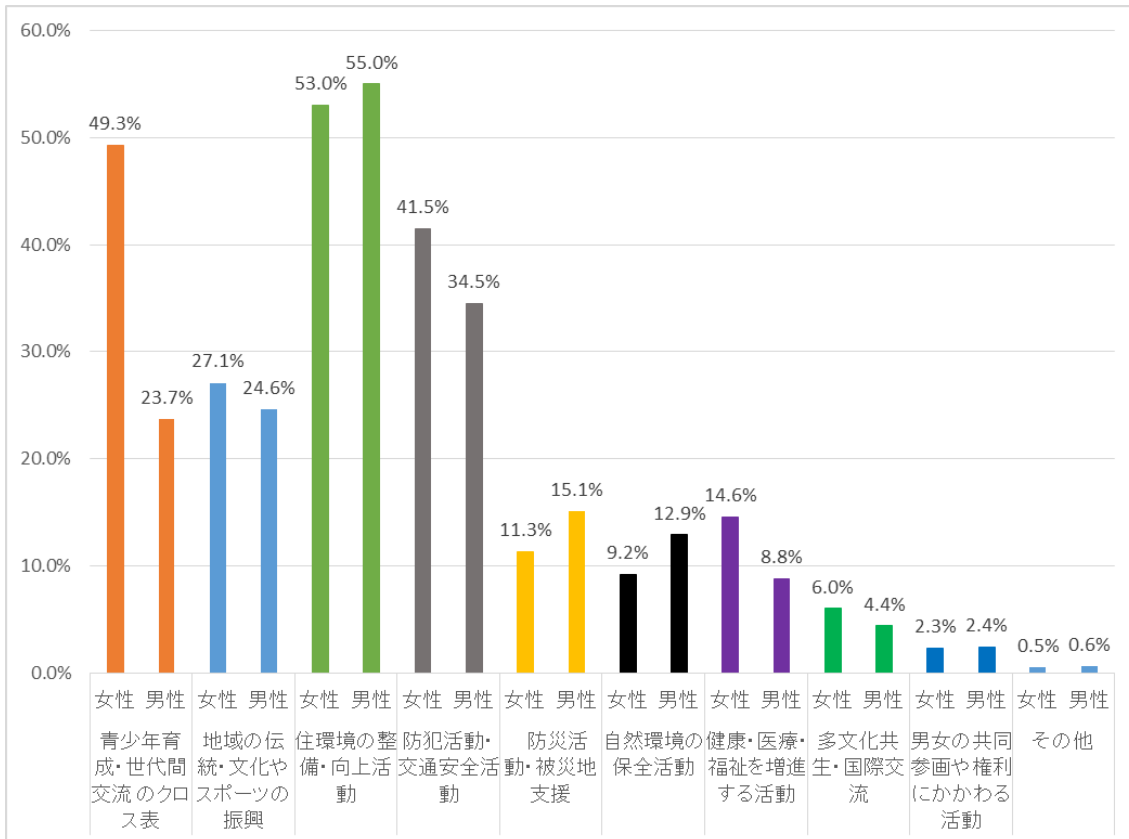
A)	A)に近い	← ややA)	どちらとも 言えない	→ ややB)	B)に近い	B)
1) チームワークや信頼関係	(N=408) 33.4%	(N=501) 41.0%	(N=188) 15.4%	(N=75) 6.1%	(N=50) 4.1%	個人が自由に能力を發揮すること
2) 創意や工夫、変化をおそれないこと	(N=214) 17.6%	(N=467) 38.4%	(N=368) 30.3%	(N=120) 9.8%	(N=47) 3.8%	慣習や前例の尊重
3) 権威の尊重・リーダーシップの發揮	(N=73) 6.0%	(N=226) 18.6%	(N=462) 38.1%	(N=307) 25.3%	(N=146) 12.0%	オープンな話し合いや民主的な運営
4) 目的の効率的な達成	(N=179) 14.7%	(N=379) 31.1%	(N=313) 25.7%	(N=228) 18.7%	(N=120) 9.9%	やりがいや満足
5) 男女の区別なく活躍すること	(N=147) 12.1%	(N=270) 22.2%	(N=399) 32.9%	(N=261) 21.4%	(N=138) 11.3%	男女がそれぞれ得意分野を生かす

対になる価値観について仕事をする際どちらによりコミットするかをたずねたところ、上のようになった。項目別にみると、集団・組織を志向し、創造性、目的の効率的達成を重視する割合、が相対的に高くなっている。

問9 あなたは、どのような種類のまちづくり活動に参加したことがありますか。

	まちづくり活動への 参加経験あり	この1年間に参加あり	活動に満足
a) 青少年育成・世代間交流	35.7% (N=474)	12.4% (N=165)	17.2% (N=229)
b) 地域の伝統・文化やスポーツの振興	25.8% (N=342)	12.1% (N=161)	14.0% (N=186)
c) 住環境の整備・向上活動	54.0% (N=715)	34.5% (N=456)	23.3% (N=309)
d) 防犯活動・交通安全活動	37.8% (N=502)	21.8% (N=289)	13.8% (N=183)
e) 防災活動・被災地支援	13.3% (N=175)	6.0% (N=79)	5.4% (N=72)
f) 自然環境の保全活動	11.2% (N=149)	5.7% (N=76)	5.2% (N=69)
g) 健康・医療・福祉を増進する活動	11.5% (N=152)	6.2% (N=81)	5.5% (N=73)

h) 多文化共生・国際交流	5.2% (N=68)	1.9% (N=25)	2.1% (N=28)
i) 男女の共同参画や権利にかかわる活動	2.3% (N=31)	0.9% (N=11)	0.8% (N=10)
j) その他	0.5% (N=7)	0.2% (N=2)	0.3% (N=5)



↓

付問 1-1 (参加していた人にたずねた) もっとも熱心に関わっている活動

a) 青少年の育成・世代間の交流 (PTA・子ども会活動も含む)	20.3% (N=154)
b) 地域の伝統・文化やスポーツの振興	13.7% (N=104)
c) 地区の住環境の整備・向上活動	38.9% (N=295)
d) 防犯活動や交通安全活動	11.4% (N=87)
e) 防災や被災地支援の活動	2.3% (N=18)

f) 自然環境の保全活動	3.0% (N=23)
g) 健康・医療・福祉を増進する活動	4.5% (N=34)
h) 多文化共生や国際交流に関する活動	2.6% (N=20)
i) 男女の共同参画や権利にかかわる活動	3.0% (N=23)
j) その他	.2% (N=2)

↓

付問 1-2 活動継続年数

(平均10.4) 年

付問 2 参加したきっかけ

活動の様子を見て	9.6% (N=72)
広報や宣伝をみて	7.0% (N=53)
自治区の活動をきっかけに	47.9% (N=361)
順番が回ってきたため	29.4% (N=222)
職場の社会貢献活動を機に	5.9% (N=44)
職場関係の知り合いがいた	2.5% (N=19)
私的な友人がやっていたため	10.4% (N=78)
その他	8.9% (N=67)

付問3 (参加していない人にたずねた) 時間があれば参加したい活動

a) 青少年の育成・世代間の交流 (PTA・子ども会活動も含む)	8.4% (N=33)
b) 地域の伝統・文化やスポーツの振興	19.1% (N=75)
c) 地区の住環境の整備・向上活動	9.6% (N=37)
d) 防犯活動や交通安全活動	8.4% (N=33)
e) 防災や被災地支援の活動	11.3% (N=44)
f) 自然環境の保全活動	14.0% (N=55)
g) 健康・医療・福祉を増進する活動	12.5% (N=49)

h) 多文化共生や国際交流に関する活動	9.6% (N=38)
i) 男女の共同参画や権利にかかわる活動	1.6% (N=6)
j) その他	0.2% (N=1)

まちづくり活動について参加経験をたずねたところ、もっとも多いのは「住環境の整備・向上」にかかわる活動であり、ついで「防犯活動・交通安全活動」「青少年育成・世代間交流」「地域の伝統・文化やスポーツの振興」となっていた。地区の集合財を供給する「地縁型」の活動が盛んであることが分かる。これに対して、テーマ型の市民活動への参加はやや少なく、豊田市と言えれば思い浮かぶ「国際交流・多文化共生」にコミットしたことがある人は5%前後にすぎない。「もっとも熱心に関わっている活動」についても挙げてもらったが、やはり地縁型の活動が高い割合を占めた。活動のきっかけについて多項選択でたずねたところ、「自治区活動をきっかけに」が半数近くと圧倒的に多く、続いて「順番が回ってきたため」が3割近くに上っていた。豊田市では自治区活動が比較的活発であり、それへの参加が、さまざまな地縁活動へのきっかけになっていることがうかがえる。

活動をしたことがない人に、「時間があれば参加したい活動」を複数選択で挙げてもらったところ、ここでは「地域の伝統・文化、スポーツの振興」がもっとも多く、「自然環境の保全」「健康・医療・福祉活動の増進」「防災活動や被災地支援」「国際交流・多文化共生」「住環境の整備・向上活動」がほぼこれと並んでいた。参加経験のない人たちについては、率は高くないものの、地縁型だけでなく、広くテーマ型活動へと参加意向が分布していることが分かる。

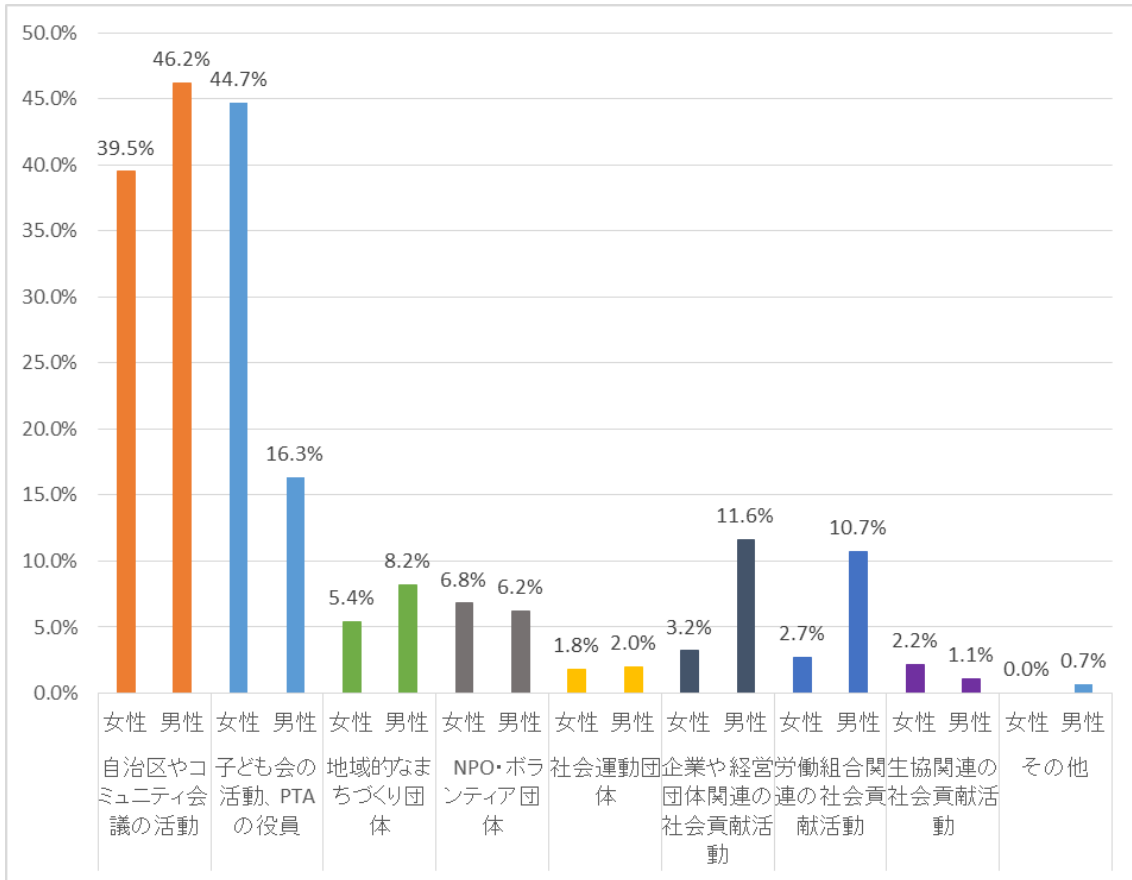
問10 地域やコミュニティで活動する際に心がけていることは何ですか。

A)	A)に近い	← ややA)	どちらとも 言えない	→ ややB)	B)に近い	B)
1) チームワークや信頼関係	(N=298) 34.8%	(N=350) 41.0%	(N=167) 19.5%	(N=23) 2.7%	(N=17) 2.0%	個人が自由に能力を發揮すること
2) 創意や工夫、変化をおそれないこと	(N=58) 6.8%	(N=152) 17.8%	(N=386) 45.3%	(N=189) 22.2%	(N=67) 7.8%	慣習や前例の尊重
3) 権威の尊重・リーダーシップの發揮	(N=22) 2.6%	(N=93) 11.0%	(N=348) 41.0%	(N=248) 29.2%	(N=137) 16.2%	オープンな話し合いや民主的な運営
4) 目的の効率的な達成	(N=64) 7.6%	(N=205) 24.2%	(N=340) 40.2%	(N=139) 16.3%	(N=100) 11.8%	やりがいや満足
5) 男女の区別なく活躍すること	(N=86) 10.1%	(N=175) 20.6%	(N=324) 38.1%	(N=173) 20.4%	(N=91) 10.7%	男女がそれぞれ得意分野を生かす

地域やコミュニティで活動する際に心がけていることについても、仕事と同じ価値観のペアでたずねた。全体として似たような分布となったが、「慣習や前例」を尊重する割合や、「やりがいや満足」を重視する割合はこちらの方が多かった。地域で活動するにあたっては、仕事で求められる価値が反映される一方、異なる価値も重視されることが分かり興味深い。

問11 次のa)～i)について、メンバーとして活動に参加したことのある団体はありますか。

	団体活動への参加 経験あり	この1年間に参加あり	活動に満足
a) 自治区やコミュニティ会議の会合・活動	43.1% (N=575)	20.5% (N=274)	14.0% (N=188)
b) 子ども会の活動、PTAの役員	29.7% (N=398)	7.3% (N=98)	13.1% (N=175)
c) 他の地域的なまちづくり団体	6.9% (N=92)	3.9% (N=52)	2.4% (N=31)
d) NPO・ボランティア団体	6.5% (N=87)	3.9% (N=52)	2.6% (N=35)
e) 社会運動団体	1.9% (N=25)	1.3% (N=17)	0.5% (N=6)
f) 企業や経営団体関連の社会貢献活動	7.7% (N=102)	4.1% (N=55)	2.3% (N=31)
g) 労働組合関連の社会貢献活動	7.0% (N=93)	2.6% (N=34)	2.3% (N=30)
h) 生協関連の社会貢献活動	1.7% (N=22)	0.7% (N=9)	0.5% (N=6)
i) その他	0.3% (N=5)	0.2% (N=2)	0.1% (N=2)



団体活動参加で突出して高いのは自治区・コミュニティ会議の会合・活動であり、ついで子ども会活動、PTAの役員としての活動であった。男女別にみると男性は自治区・コミュニティ会議の会合・活動、企業や経営団体関連、労働組合関連の社会貢献活動の参加率が高く、女性は子ども会の活動、PTA役員としての活動が相対的に多い。

問12 あなたは現在の生活について、どの程度満足していますか。

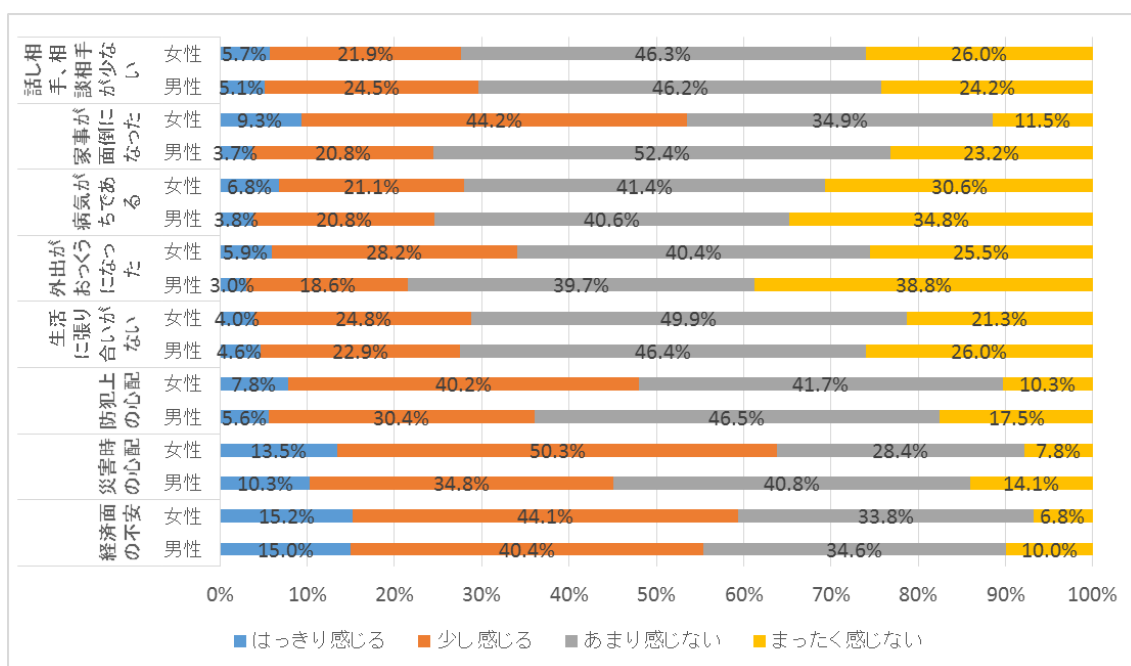
	満足している	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満である
全体的に	(N=313) 23.4%	(N=816) 61.0%	(N=168) 12.5%	(N=41) 3.0%
お仕事の面で	(N=136) 14.5%	(N=532) 56.5%	(N=195) 20.7%	(N=79) 8.4%
家族との関係で	(N=488) 37.3%	(N=666) 50.9%	(N=123) 9.4%	(N=32) 2.5%
友人との関係で	(N=335) 25.3%	(N=837) 63.1%	(N=138) 10.4%	(N=16) 1.2%

地域との交流で	(N=120) 9.1%	(N=880) 67.1%	(N=266) 20.3%	(N=45) 3.4%
健康面で	(N=236) 17.7%	(N=742) 55.7%	(N=273) 20.5%	(N=81) 6.1%

いくつかの項目で満足度についてたずねた項目では、全体として満足寄りの分布がみられたが、「家族との関係」で満足度がより高く、「地域との交流」ではやや低くなっている。

問13 現在生活するうえで具体的にお困りのことがありますか。

	はっきり感じる	少し感じる	あまり感じない	まったく感じない
話し相手、相談 相手が少ない	5.3% (N=71)	23.3% (N=312)	46.3% (N=620)	25.1% (N=336)
家事が面倒にな った	6.3% (N=85)	31.8% (N=427)	43.7% (N=592)	17.5% (N=237)
病気がちである	5.2% (N=70)	21.0% (N=281)	40.9% (N=549)	32.9% (N=441)
外出がおっくう になった	4.4% (N=58)	23.1% (N=310)	40.0% (N=537)	32.5% (N=436)
生活に張り合い がない	4.3% (N=57)	23.8% (N=319)	48.0% (N=643)	23.9% (N=319)
防犯上の心配	6.7% (N=90)	35.0% (N=470)	44.2% (N=593)	14.1% (N=189)
災害時の心配	11.8% (N=158)	42.0% (N=564)	35.0% (N=469)	11.2% (N=150)
経済面の不安	15.1% (N=203)	42.1% (N=566)	34.2% (N=460)	8.5% (N=114)



生活上困っていることについては、日常生活にかかわる「経済面の不安」に加え、「災害時」「防犯上」という非常時への心配が相対的に一とくに女性で一高くなっている。

「話し相手、相談相手が少ない」「外出がおっくうになった」のように地域での孤立にむすびつきやすい項目、「家事がおっくうになった」「病気がちである」のように高齢化や支援ニーズと関連する項目でも一定割合の人が「はっきり感じる」「少し感じる」と答えている。家事を多く担当する女性では「家事がおっくうになった」と回答する率がより高い。

問14 ご自身の健康に不安が生じたらどこを頼りにしますか。

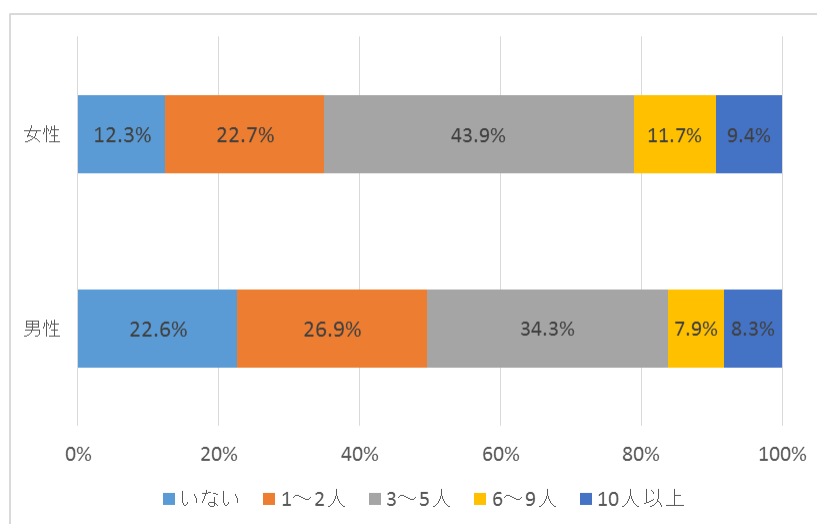
	家族・親族	ご近所・友人	病院や専門機関	福祉関係のNPO	自治区やまちづくり団体	社協や市役所
相談で	(N=1088) 80.4%	(N=307) 22.7%	(N=824) 60.9%	(N=21) 1.6%	(N=11) 0.8%	(N=106) 7.8%
家事や介助で	(N=1095) 80.9%	(N=148) 10.9%	(N=338) 25.0%	(N=153) 11.3%	(N=35) 2.6%	(N=273) 20.1%
経済的問題で	(N=45) 3.3%	(N=60) 4.5%	(N=77) 5.7%	(N=45) 3.3%	(N=17) 1.2%	(N=318) 23.5%

健康に不安が生じたときの相談先としては、「家族・親族」の他「病院・専門機関」が

多く、「ご近所・友人」も一定の割合を占めている。「家事や介助」では「福祉関係のNPO」も頼り先として登場する。健康の問題が経済的問題におよぶと、「家族・親族」でも頼ることは少なく、「社協や市役所」の比重が大きくなる。

問 15 あなたは、ふだんいっしょにお茶や食事を楽しむ友人が何人くらいいますか。

1. いない	2. 1～2人	3. 3～5人
17.6% (N=239)	24.6% (N=333)	38.3% (N=519)
4. 6～9人	5. 10人以上	
9.5% (N=128)	8.7% (N=117)	

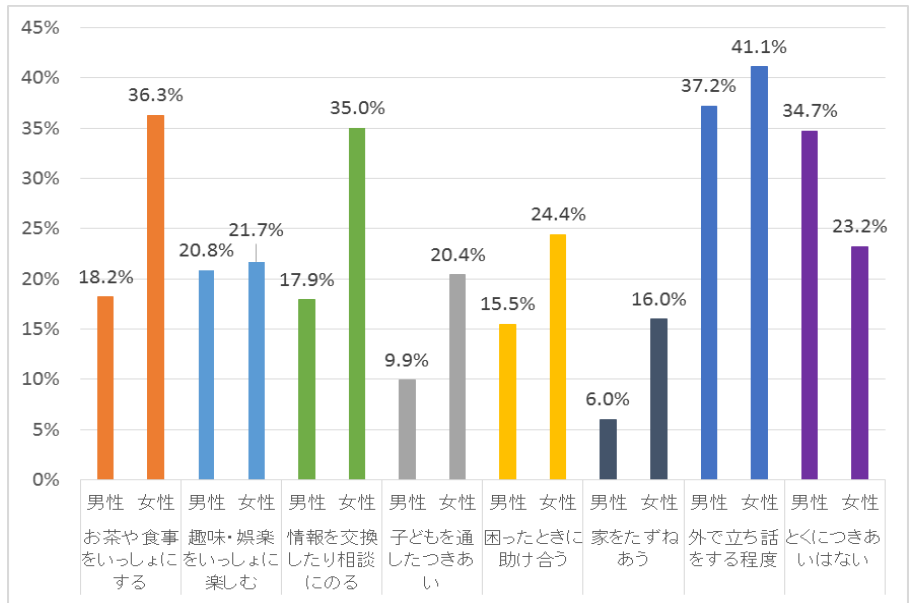


親しい友人の存在を「ふだんいっしょにお茶や食事を楽しむ友人」の数でたずねたところ、3人以上いる人が過半数となった。ただし「いない」人も17.6%と一定の割合を占めている。男性より女性の方がその数は多い。

問 16 あなたは、ご近所の親しい方とはどのようなお付き合いをされていますか。

1. お茶や食事をいっしょにする	2. 趣味・娯楽をいっしょに楽しむ
26.3% (N=357)	21.0% (N=284)
3. 情報を交換したり相談にのる	4. 子どもを通したつきあい
25.6% (N=347)	14.6% (N=198)

5. 困ったときに助け合う 19.5% (N=263)	6. 家を訪ねあう 10.6% (N=143)
7. 外で立ち話をする程度 38.5% (N=521)	8. とくにつきあいはない 28.9% (N=392)



近所づきあいについて多項選択でたずねた結果、「外で立ち話をする」がもっとも多く、「お茶や食事をいっしょにする」「情報を交換したり相談にのる」も多かった。「とくにつきあいはない」割合も3割近くに上っている。全体として、ここでも女性の方がつきあいの割合が高い。

問 17 お住まいの地域に、職場や仕事関係で知り合った知人の方はいらっしゃいますか。

1. いない 34.0% (N=460)	2. 1～2人いる 24.5% (N=331)	3. 3～5人いる 20.0% (N=271)	4. 6～9人いる 5.2% (N=70)
5. 10人以上 10.9% (N=147)	6. 分からない 1.5% (N=20)	7. 仕事をしたことがない 2.6% (N=35)	

住んでいる地域に職場関係の知り合いがいる人は2/3 近くになる。10人以上いる人も約1割いる。

問 18 ふだんの1日の生活・仕事のなかで、知らない人と話す(電話を含む)機会はありませんか。

1. ほとんどない 43.4% (N=588)	2. 1～2人いる 26.4% (N=357)	3. 3～5人いる 14.5% (N=197)	4. 6～9人いる 3.3% (N=45)
5. 10人以上 9.3% (N=126)	6. 分からない 1.9% (N=26)		

ふだんの1日で知らない人との接触がどれくらいあるかたずねたところ、「ある」人の割合の方が高いものの、「ほとんどない」人の割合も4割強とかなり多くなっている。人口密度が低く、郊外の住宅団地から工場に通う人が多い豊田市の特徴が表れている。

問19 さまざまな国から豊田市に来ている人が地域社会の活動に参加することについて、どれほど重要と思われますか。

	とくに重要	どちらかといえ ば重要	どちらとも言え ない	重要ではない
文化的な交流や 地域のまちづく り活動への参加	17.0% (N=226)	52.8% (N=702)	26.7% (N=354)	3.5% (N=47)
投票権をもった り議員になっ たりすること	2.7% (N=36)	22.5% (N=298)	55.3% (N=732)	19.5% (N=259)
地域で働いたり 事業を営む事 すること	7.0% (N=93)	40.1% (N=530)	45.7% (N=605)	7.2% (N=95)

外国人の地域社会への参加については、文化交流やまちづくりへの参加を重視するひとが多い。経済活動への参加を重視する人はそれより少なく、参政権についてはもっとも低かった。

↓

付問 回答者の国籍

バングラデシュ (N=1)、ブラジル (N=2)、韓国 (N=2)、中国 (N=2)

問20 外国人(日本人以外)の友人・親しい方はいらっしゃいますか。

	いない	1人	2~3人	数人以上いる
a) 職場関係に	84.5% (N=1144)	4.7% (N=64)	4.5% (N=61)	3.0% (N=40)
b) 住んでいる地域に	89.2% (N=1208)	4.1% (N=56)	3.1% (N=42)	1.5% (N=21)
c) 親族関係で	92.6% (N=1253)	2.8% (N=38)	1.5% (N=20)	1.2% (N=17)
d) インターネット上で	92.9% (N=1258)	1.2% (N=17)	1.3% (N=23)	1.7% (N=24)

↓

付問1 一番親しい人の国籍は

中国 (N=44)、ブラジル (N=40)、米国 (N=34)、韓国 (N=29)、フィリピン (N=25)、タイ (N=11)、イギリス (N=10)、インドネシア (N=9)、オーストラリア (N=7)、台湾 (N=5)、スリランカ (N=5)、ベトナム (N=4)、ネパール (N=4)、カナダ (N=4)、フランス (N=3)、スイス (N=3)、インド (N=3)、マレーシア (N=3)、オランダ (N=2)、キューバ (N=2)、ブータン (N=2)、ミャンマー (N=2)、モンゴル (N=2)、ルーマニア (N=2)、南アフリカ共和国 (N=2)、シンガポール (N=1)、スペイン (N=1)、デンマーク (N=1)、トルコ (N=1)、ニュージーランド (N=1)、バングラディッシュ (N=1)、ペルー (N=1)、アルゼンチン (N=1)、イラン (N=1)

↓

付問2 その方とはどのようなお付き合いをされていますか。

1. お茶や食事をいっしょにする 28.9% (N=85)	2. 趣味・娯楽をいっしょに楽しむ 14.3% (N=42)
3. 情報を交換したり相談にのる 41.1% (N=121)	4. 子どもを通じたつきあい 11.8% (N=35)
5. 困ったときに助け合う 14.3% (N=42)	6. 家を訪ねあう 12.3% (N=36)
7. 立ち話をする程度 31.5% (N=93)	

外国人の友人について社会的文脈別にたずねたところ、一人以上「いる」人は1割内外であり多くはない。しかしいる人については情報交換・相談や、いっしょに食事をするなど、親身な関係を築いているケースが多い。

問21 お仕事で一週間以上外国の地域に出張されたことがありますか。

1. 北米地域 7.9% (N=107)	2. 南米地域 1.7% (N=24)
3. ヨーロッパ地域 6.2% (N=84)	4. アジア地域 10.2% (N=138)
5. アフリカ地域 2.0% (N=27)	6. オーストラリア地域 2.3% (N=30)
7. 中近東地域 0.8% (N=11)	8. ロシア周辺地域 0.4% (N=6)
9. とくにない 82.4% (N=1115)	

仕事で1週間以上滞在したことがある地域についてたずねたところ、アジア地域、北米、ヨーロッパの順で多くなっていた。

問22 余暇やレジャーをどれくらい楽しんでおられますか。

	よくする	ある程度する	あまりしない	ほとんどしない
ドライブや行楽、旅行	16.1% (N=217)	49.4% (N=669)	22.7% (N=308)	10.1% (N=137)
趣味や習いごと	18.2% (N=246)	35.7% (N=483)	22.2% (N=300)	22.3% (N=302)
テレビを見る、ラジオを聴く	48.3% (N=653)	38.8% (N=526)	8.6% (N=116)	2.8% (N=38)
コンサート、演劇や美術館に行く	2.9% (N=39)	15.5% (N=210)	32.2% (N=436)	47.4% (N=642)
パチンコやカラオケに行く	5.2% (N=71)	12.8% (N=173)	13.8% (N=187)	66.3% (N=898)

余暇やレジャーの項目では屋内型の「テレビを見る・ラジオを聴く」が多いのは当然として、「ドライブや行楽・旅行」が多く、ついで「趣味や習いごと」という教養型も多い。ハイカルチャー志向の「コンサート、演劇や美術館に行く」が少ないのは不思議ではないが、「パチンコやカラオケに行く」大衆型の娯楽が少ないのはやや意外であった。

問 23 仮に東海・東南海地震が起きた場合、どのような被害がとくに心配ですか。

1. 住居・家財の被害 92.0% (N=1246)	2. 負傷や治療上の問題 67.3% (N=912)	3. 火災 67.7% (N=916)
4. 経済活動への打撃 45.1% (N=610)	5. 行政機能の低下 27.9% (N=378)	6. 交通や都市基盤への被害 49.1% (N=665)
7. 近隣・コミュニティへの被害 23.5% (N=319)	8. 原発事故の影響 13.9% (N=188)	
9. 津波による被害 7.1% (N=96)	10. その他 1.9% (N=26)	

発災が懸念される東海・東南海地震について心配している被害をたずねたところ、「住居・家財の被害」「負傷や治療上の問題」「火災」など、家庭に直接およぶ被害を心配する率が高い。ついで「交通や都市基盤への被害」「経済活動への打撃」「行政機能の低下」「近隣・コミュニティへの被害」など、地域インフラや公共性にかかわる被害への心配が多い。「原発事故の影響」を心配する人も一定数存在する。

問 24 東海・東南海地震^{*}の発生に備えて何かされていることがありますか、また今後これを強化すべきだと思いますか。

	ご家庭で	近隣や 自治区で	勤め先で	NPO・ボラン ティア活動で	行政や関連団 体を通じて
a) 避難への備え	73.5% (N=995)	42.3% (N=572)	28.1% (N=380)	3.5% (N=47)	15.0% (N=203)
b) 消火や救助活動への備え	46.6% (N=631)	53.3% (N=721)	25.5% (N=345)	6.2% (N=84)	20.5% (N=278)
c) 防災用品・食糧の備蓄	79.1% (N=1072)	37.2% (N=503)	22.8% (N=309)	5.9% (N=81)	21.9% (N=296)

地震発災に備えておりまた強化すべき担い手についてたずねたところ、「家庭」について、あるいはそれと並んで重視されていたのが「近隣や自治区」であった。行政以上に「勤め先」が重視されていたことは、企業都市としての特徴を表していると言えるだろう。

問 25 東日本大震災に関連してこれまでに支援活動をされましたか。

	個人や家族 で	近隣や 自治区で	勤め先で	NPO・ボラン ティア活動で	行政や関連団 体を通じて
a) 募金や物資を送ったり その支援をした	49.0% (N=663)	18.4% (N=249)	33.4% (N=453)	3.7% (N=51)	7.3% (N=99)
b) 被災地の産品を買ったり その支援をした	40.6% (N=550)	3.0% (N=41)	9.0% (N=122)	0.5% (N=6)	1.9% (N=25)
c) 被災地でボランティア活 動をした	1.3% (N=18)	0.8% (N=11)	3.3% (N=44)	0.6% (N=8)	1.1% (N=15)
d) 避難や人の受け入れにか かわる活動をした	1.6% (N=21)	0.6% (N=8)	1.7% (N=23)	0.5% (N=7)	0.6% (N=8)

募金・物資の支援や被災地の産品を買う、など負担の少ない支援に関しては、「個人や家族で」が多く、ついで「勤め先で」「近隣や自治区で」の順になっていた。被災地でのボランティア活動や、非難や人の受け入れにかかわる活動といったコストの大きい活動について行った人は少なくなるが、相対的に勤め先をつうじて行った人が多く、ここでも企業都市の特徴がみられる。

(問 26 以下はフェイス・シート項目につき省略)